

あがつま



『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

(ヨハネによる福音書 15章5節)

♪ 賛美歌を歌おう ⑱ 『山路こえて』

讚美歌 404番

松山夜学校 後の松山城南
高校)の校長を務めた西村
清雄 (1871-1964)の作詞によ
る賛美歌です。

一九〇三年の二月、西村は
宇和島教会の伝道を応援し
た帰る途中、山道を一人歩
きながら創作されました。
作者自身の懐述によれば、
『日はすでに西山に傾いて
いた。山頂には残雪が輝き、
梢には松の嵐、谷には溪流
のささやきがきこえていた。
やがて冬の日は暮れて、気
の間を洩れる星あかりで、
やつと山路を辿ったが、大
洲までなお五里もあるかと
思えば心細かった。その時
ふとかねて三輪源造君が新
作讚美歌を見せてくれたこ
とを心に浮べ、私の最も好

きなゴールデン・ヒルの歌
調に合わせて、一句一句作り、
一節できれば、歌って見て
又次の一節にうつるうち、
感興次第に加わり、今まで
の淋しさもどこかへ去り、
夜の山路を楽しみ、『され
ども主よ、ねぎまっらじ、
旅路の終りの近かれとは』
との句が自然と出て来たの
である。』(『讚美歌略解
歌詞の部』1955より)

この歌は、作者の友人で
あった三輪源造(国文学者
1871-1946)によって紹介さ
れ、『讚美歌』(1903)に採
用、当時は流行歌のように
歌われたそうです。

この賛美歌が作られたと
される法華津峠と松山城南
高校には、一九五二年にこ
の歌の歌碑が立てられました。

稲垣真実)